

小学校英語教育モデル事業

《事業の概要》

- 小学校5, 6年生における英語の教科化(平成32年度全面実施)に備え、モデル校に専科教員を配置(定数:4校、非常勤:16校)し、指導方法等の研究実践を行う。
- モデル校を中心に、近隣小中学校と連携し、英語専科指導の充実を図る。
- 県での研修体制を充実させ、英語教育推進リーダー(中央研修参加者)を指導者とし、各校における中核教員の養成と学級担任等の英語指導力の育成を図る。

《事業計画》

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
文部科学省の計画			学習指導要領改訂		新学習指導要領(小学校英語)の先行実施		新学習指導要領全面实施
英語教育推進リーダー中央研修							
英語専科教員の配置	4校	20校					専科教員の配置継続 英語教育の充実
モデル校での実践	[取組1] ・指導方法の工夫・改善 ・指導計画の立案 ・教材開発 ・校内研修による担任の指導力向上 ・近隣校との交流(授業公開) ・教材提供 [取組2] 中学校との連携:英語教員による助言(指導法、教材)						
研修体制の充実	小学校教員の英語指導力の向上						
	～英語力養成研修Ⅰ～ 参加者:各校1名(悉皆2日)、英語専科教員 ・伝達講習(指導者:中央研修参加者=推進リーダー) ・英語基礎力向上研修(指導者:大学教授等)		～英語力養成研修Ⅱ～ ・教科化に向けた実践的な研修		英語指導力向上に向けての支援体制の充実について検討		
	校内伝達研修(全小学校)				実践的な研修		

《専科指導の成果》

※配置校からの聞き取りによる

児童に関する効果

- ・児童の外国語に対する学習意欲が高まっている。
- ・児童が、友達やALTと英語を使って、積極的にコミュニケーションを図るようになってきている。
- ・英語に関する掲示物の工夫により、児童の英語や外国の文化に対する興味関心が高まってきている。

教員に関する効果

- ・専科教員と担任が、常にチームで授業実践、授業前後の教材研究や事後研修を行うことで、担任にとって効果的な研修の場となっており、担任の授業力が育成されている。
- ・授業では、常にチームティーチングの形であるため、児童一人一人に目が行き届き、きめ細かな指導が行える。

保護者に関する効果

- ・英語の教科化に対する保護者の不安解消につながっている。